

# 壁掛型据付説明書

据付工事前にお読みになり、正しく据え付けてください。  
この据付説明書は、お客様で保管していただくように依頼してあります。据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書によってお客様に使用方法・お手入れの仕方を説明してください。

家庭用エアコンにはGWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

## 安全上のご注意

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った取り扱いをしたときに生じる内容を次のように区分して説明しています。 ■お守りいただく内容を「図記号」で区分して説明しています。

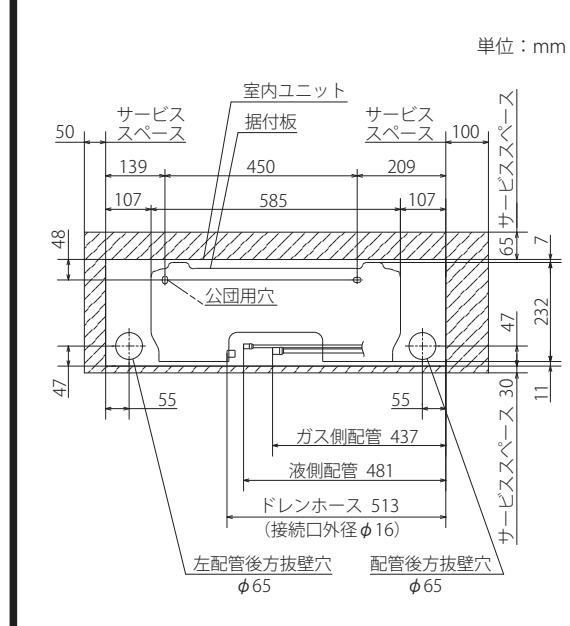
- 警告** 死亡または重傷等の重大な結果に結び付くおそれがあるもの。
- 注意** ケガや財産に損害を受けるおそれがあるもの。状況によっては重大な結果に結び付くおそれがあるもの。

### 警告

- 指定冷媒（R32）以外は使用（冷媒補充・入替え）しない。（機器の故障・破裂・ケガ等の原因）
- 冷凍サイクル（配管）内に、指定冷媒（R32）以外の空気を混入させない。（冷凍サイクル内に異常に高圧になり、破裂・ケガ等の原因）
- 電源コードの加工、途中接続、タコ足配線はしない。
- 電源コードを束ねたり、巻いたり電源プラグを踏むなどして変形させない。（接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、発熱・火災・感電の原因）
- ドレンホースは、硫黄系ガス等有害ガスの発生する排水溝に直接入れない。（室内への有害ガス侵入・故障・冷媒漏れの原因）
- 据付工事は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実にを行い、据付工事部品は必ず付属部品および指定の部品を使用する。（ユニットの落下・水漏れ・感電や火災の原因）
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。（ユニットの落下・転倒によるケガの原因）
- 電気工事は、電気工事士の資格がある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。（感電・火災の原因）
- 漏電しゃ断器を取り付ける。（感電・火災の原因）
- ユニット内の作業（据付時やサービス時等）を行うときは、電源を切ってから行う。（感電の原因）
- 内外接続配線は、途中接続やより線の使用をせず、所定のケーブルを使用し、端子台へ確実に接続する。（発熱・感電・火災の原因）
- 内外接続配線は、浮き上がらないように整形し、リッド、サービスパネルを確実に取り付けする。（発熱・感電・火災の原因）
- 電源プラグを差し込む際は、刃の根元まで確実に差し込む。電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、ガタツキがないことを確認する。（ホコリの付着・詰まり・ガタツキがあると、感電・火災の原因）  
\*コンセントにガタツキがある場合は交換する。

## 3. 据付板の取り付け

据付板は水平に取り付けてください。



### 壁に直付けする場合

- 壁内の構造物（間柱等）をさがして水平を確認してから壁面に直付けしてください。間柱等をさがすのが困難な場合は、市販のボードアンカー等を使用してください。
- 壁が石膏ボードの場合、必ず金属製のカサ式ボードアンカーを使用してください。ねじ込み式のアンカーは使用しないでください。（締め過ぎると、保持強度が極端に落ちる場合があります。）
- 据付板の水平調節は、4本のタッピンねじを仮締めした状態で行ってください。基準穴を中心に回転させ、水平になるように調節してください。

### 回り縁と鴨居に据え付ける場合

- 真壁据付用セット（SA06279）（別売品）を使用してください。
- 据付板は、水平を確認してから固定してください。
- 据付金具は、42cm～70cmの間で調節できます。
- 真壁据付用セットに付属のねじを使用してください。

## 4. 壁穴あけ・スリーブのはめ込み

壁穴用スリーブセット（現地手配品）を使用してください。

- 内外接続配線が壁の中のラスタル等に接触する危険があるため、スリーブは必ず使用してください。
- 水漏れ・露たれのおそれがあるため、壁穴をバテで完全にシールしてください。

- ホールコアドリル（φ65mm）で、室外側へ下り勾配の穴をあける。

## 5. 室内ユニットの配線接続

### 警告

- 内外接続配線はVVFケーブル3心φ2.0mmを使用する。（故障・火災の原因）

- 内外接続配線の被覆を18mmむく。  
内外接続配線長さは、20m以内（40、56タイプは25m以内）とする（ユニット間の信号エラーとなり、ユニットが停止する原因になります。）  
より線は絶対に使用しないでください。
- 底面パネルを取り外す。  
キャップ内のねじを外す（2か所）。  
左右側面のツメ（2か所）を内側に押し出す。
- 前面パネルを開け、ディスプレイパネル固定ねじを外し、ディスプレイパネルを取り外す。
- ねじを外し、配線クランプを取り外す。

### 5. 内外接続配線を端子台に接続する。

- 内外接続配線がアース端子に触れないよう配線してください。
- 内外接続配線は、端子台の奥までしっかりと挿入してください。（心線が曲がっていたり挿入が不完全な場合、接触不良となり、発熱・火災の原因になります。）
- のぞき穴から心線が見えることを確認してください。
- 端子番号を間違えないように接続してください。（誤配線すると、室内ユニットの運転ランプとタイマーランプが点滅し、運転が停止します。）指定配線以外の太さを使用した場合も、停止する場合があります。

- 内外接続配線に配線クランプを取り付け、ねじで固定する。
- ディスプレイパネルを取り付け、ねじで固定する。
- 底面パネルを取り付け、ねじで固定する。

## 1. 付属部品の確認

室内ユニット用				室外ユニット用	
① 据付板	② タッピンねじ (据付板用φ4×25)	③ リモコン	④ リモコンホルダー	⑤ リモコンホルダー 取付用ねじ(φ3.5×16)	⑥ ドレンエルボ
⑥ 単4形乾電池	⑦ 空気清浄フィルター	⑧ フィルターホルダー	取付説明書 据付説明書(本書) 保証書		⑨ グロメット
2本	1個	2個	各1部		1個

① 据付板は室内ユニット裏面に付属しています。⑧ フィルターホルダーは室内ユニットに付属しています。

## 2. 据付場所の選定

以下の条件に合う位置に、お客様の同意を得て据え付けてください。

### 室内ユニット

- 風の障害がなく、部屋に冷風が行き渡る所
- 本体を水平に据え付けられ、重量を十分に支えられる、運転音や振動が増大しない所
- 図の●印の間隔を取れる所
- ドレン排水が容易にできる所
- テレビ・ステレオ・ラジオから1m以上離れている所（映像が乱れたり、雑音が生じたりすることがあります）
- 高周波機器、電気機器の影響を受けない所
- 油の飛沫の多い所をさける
- 受信部に直射日光や強い照明灯の光が当たらない所
- 電子式点灯方式（インバータ等）の蛍光灯からできるだけ離れた所（リモコンの送信距離が短くなる場合があります）
- ユニットの下に家電製品や家財等がない所
- 火災警報器からエアコン（吹出口）が1.5m以上離れている所
- 吸込口・吹出口付近がふさがれない所
- ユニット下面から床まで1.8m以上離れている所
- 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質が発生する所をさける

### 室外ユニット

- 雨や直射日光が当たりにくく、風通しがよい所
- 本体を水平に据え付けられ、重量を十分に支えられる、運転音や振動が増大しない所
- 図の●印の間隔を取れる所
- 吹き出した風や運転音が隣家に迷惑をかけない所
- ファン吹き出し風が植木等に当たらない所
- 塩害の影響がない所、潮風が直接当たらない所
- ビル上階等の常時強風が当たらない所
- 油・蒸気・油煙の発生しない所
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある所に取り付けけない
- 小動物のすみかになるような所に取り付けけない
- ベランダの手すり近くに取り付けけない
- 吸込口・吹出口付近がふさがれない所
- ドレン排水しても問題がない所
- 近くに悪臭等がなく空気が清浄な所

### リモコン

- リモコンを操作して、本体が確実に受信できる所
- テレビ・ステレオ等の影響を受けない所
- 直射日光が当たらない所
- ストーブ等の熱の影響を受けない所
- リモコンホルダーを土壁等に取り付けけない

### 電源電圧

- 機種により電源電圧が異なります。（異常電圧投入はコントロールの破損）
- 電源プラグを差し込む際は、コンセントにガタツキがないことを確認する。（焼損の原因）
- コンセントにガタツキがある場合は交換する。
- 電源コードを束ねたり巻いたり加工しないこと。（発熱・火災の原因）

コンセントの形状	電源コードの長さ	
	左出し	右出し
100V 15A機	約1.2m	約2.0m
100V 20A機	約0.7m	約1.5m
200V 15A機	約0.7m	約1.5m

### 警告

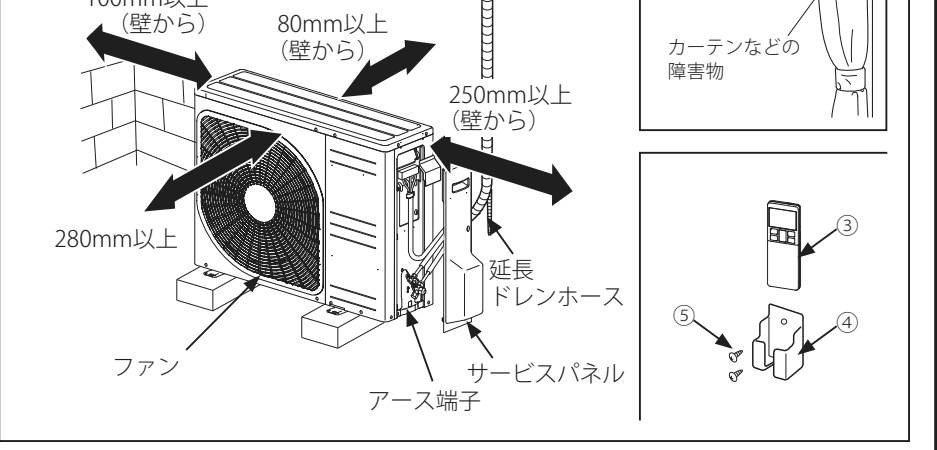
- 壁穴をバテで完全にシールする。（ホコリ・昆虫・小動物・高温の外気が室内機内に入流し、火災の原因）
- 壁穴をバテで完全にシールする。（水漏れ・露たれの原因）
- ホースは必ず下り勾配にする。（水漏れの原因）

### 注意

- 冷媒配管が以下の長さを超える場合は、エアージェット後に20g/mの冷媒充填する。  
・22～36タイプ : 10m以上  
・40、56タイプ : 15m以上

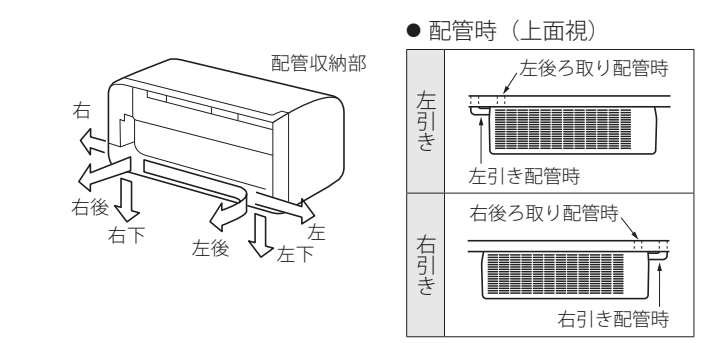
### 配管長許容値

タイプ	22～36タイプ	40、56タイプ
配管長	20m以内	25m以内
高低差	10m以内	15m以内



## 6. 室内ユニットの配管・ドレンホース整形

配管は、左・左後・左下・右・右後・右下から取り出せます。



- 配管整形・テープ巻き作業時は、保護シートを敷く等パネルに傷が付かないように注意してください。
- テープ巻きは、内外接続配線が端子台の奥までしっかり挿入されていることを確認してから行ってください。

### 右後取り出しの場合

- 配管を整形する。  
配管の根元を押さえ、向きを変え、伸ばしてから整形してください。
- テープ巻きする。  
壁穴に通す長さ分だけテープ巻きしてください。  
内外接続配線は、必ず配管とテープリングしてください。  
ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

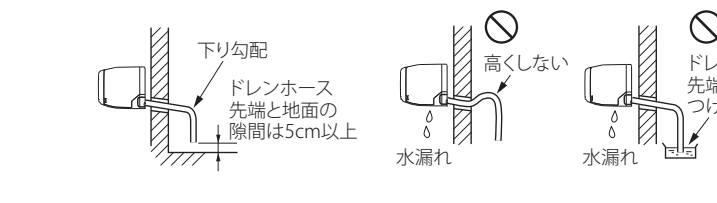
### 右後取り出し以外の場合

- ドレンホースを付け替える。  
ドレンホースとドレンキャップは確実に差し込んでください。（水漏れの原因になります。）  
(1) ドレンホース固定用ねじを外し、ドレンホースを回転させながら外す。  
(2) ドレンキャップを手またはベンチ等で外す。  
(3) 上記(2)で外したドレンキャップを外し、ドレンホースを回転させながら確実に差し込み、固定用ねじで固定する。  
(4) ドレンホースを回転させながら確実に差し込み、固定用ねじで固定する。
- 配管を整形する。
- テープ巻きする。

## 7. 室内ユニットのドレン工事

ドレンホースは、ドレン水が流れやすいように必ず下り勾配をつけてください。

### 1. ドレンホースと配管類をまとめて壁穴に通す。



- ドレン排水を確認する。  
熱交換器の下にドレンパンに水を注ぎ、室外へ排水されることを確認してください。

- 延長ドレンホースが室内にある場合は、必ず市販の断熱材を使用して確実に断熱してください。気密性の高い部屋等で換気扇を使用したときや強風を受けた場合、「ポコポコ」という音がある場合があります。エアークットバルブ（EA455A-1）（別売品）を取り付けてください。

## 8. 室内ユニットの取り付け

### 1. 室内ユニット上部を据付板に引っかける。



- 室内ユニット下部を軽く押し込み、据付板に固定する。  
固定後、室内ユニット下部を手前に引っ張り、確実に固定されていることを確認してください。

### 電源コードの収納について

電源コードが余った場合、室内ユニット背面のスペースのある所にゆとりと収納してください。ゆとりが不足すると、電源コードが圧迫され、発熱の原因になります。（電源コードをぶって、水漏れの原因になります。）

